

平成30年度
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、掲示されている時間割のと通りの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が4問で、表紙を除いて10ページです。〔四〕は記述問題です。
- 4 解答用紙の答え方は、おもて面がマークシート方式でうら面が記述式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前に解答用紙冊子から解答用紙を切り離し、おもて面とうら面の受験番号を確認後、氏名を決められた欄に書きなさい。
- 6 答えは、それぞれの解答用紙に記載されている注意事項にしたがって、ていねいに記入しなさい。
- 7 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

— 1 —

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

1 私たちが何か「わからない」ときはどんな状態にあるのでしょうか。単にその言葉の意味を知らないだけ、という単純な場合は意外と少ないものです。そうではない、よくある「わからない」例は、「言葉の意味はまあわかったとして、だからそれがどうしたつていうの？」という疑問が残っている状態です。

2 典型的な「わからない」話のパターンは、たいてい次のような疑問をもたらしめます。

- ・ どうしてそんな話がこのタイミングで出てくるのか？
- ・ どうしてこの人はそんなことをいつているのか？
- ・ そんな話を私にして、何になるつていうのか？
- ・ だから、結局のところ何がしたいのか？

3 これらはどれも、説明された個別のことからはなんとなくわかったが、全体として、それらがどう関係し合つていて、結論として何がしたいのか、それが見えてこないという状況です。

4 (a)、コンピュータや自動車に詳しい人にとって「初心者にわかりやすい説明をする」ということは、意外と難しいものです。初心者にはわからない細かな違いをずっとしゃべったり、逆に初心者には欠かせない基本的な話題を省いてしまったり、ということがよくあります。

5 これはまさによくいわれる「木を見て森を見ず」状態です。自分が一本一本の木を詳しく知っているからといって、初心者にまでそ

の木について詳しく説明する必要はありません。相手がそれを理解でき、さらに相手がその説明を必要としている場合だけ、詳しく説明すればいいのです。

6 「木を見て森を見ず」ということはふつう、「」という意味で使われています。つまり、目先の小さなことばかりにとらわれずに、もっと大きな全体像に目を配れ、ということです。

(b)、私はこのことばからさらに一歩進むことが、「わかる」ためにとても重要だと考えています。それは、「森という全体像を見渡したうえで、さらに一本一本の木それぞれが、まわりの木と互いにどう関係にあるか」を知ることです。

7 たとえば、森の中の一本のクヌギの木を考えましょう。このクヌギの木は、まわりのたくさんの木と影響しあいながら生きています。去年に枯れて倒れた別の木が、クヌギの木の根もとに寄りかかっているかもしれない。隣にあるもつと大きな木に日光をさえぎられて、クヌギの木は毎年ちよつとずつ日当たりが悪くなっているかもしれない。逆に、薄暗いところが好きなシダのような植物は、このクヌギの木の下で元気に育っているかもしれない。また、根もとの地面には、クヌギの実がたくさん落ちて、小さな芽が出てきたところかもしれません。

8 この例のように、単にクヌギの木一本から、それを取り囲む周囲とのつながりにまで視野を広げると、そのクヌギの木が持つ意味が

より鮮明になるのです。理解しようとしていることが、他とどうつながっているか、どういう関係にあるかは、それを「わかる」ために非常に重要です。

[9] 反対に、そういうつながりを無視して一部分を切り取ってしまうことで、理解が難しくなることはよくあるのです。この切り取りや分解はまさに、西洋科学の基本的な考え、還元主義そのものです。

[10] 西洋科学を中心とした「還元主義」は何でも分解してしまうため、ものごとをつきつめていく専門家にとって、強力な武器となります。

(c)、一般の人々は「細かい話はいらなから、とにかく全体像を理解したい」はずで。そのような場合、何でも分解しすぎてしまう「科学」は、わかりにくくなって当然なのです。何かを「取り出す」とは、「全体の中でどういう関係を持ちながらそこにあるか」という、理解に不可欠な情報を捨ててしまうことなのですから。

[11] 結局のところ、ものごとを深く理解するためには「木ではなく森を見る」からさらに進んで、「木を見て森も見る、関係も見る」ことが大切だ、ということになります。具体的にいえば、「木を見て、森を見て、航空写真も見て、衛星写真も見て、樹皮の顕微鏡写真も見て、DNAの構造図も見る」というような、ありとあらゆるレベルのそれぞれにおいて対象を「見る」ことで、初めて全体像が理解できるのです。

[12] たとえば、地球の温暖化に影響する二酸化炭素の増加について考えるには、

・顕微鏡のレベルで見ると植物が二酸化炭素を吸い、酸素を吐き出している

・衛星写真のレベルで見ると広大な面積の森林が毎年消失している

という、大きさの全然違うレベルで「見る」ことが必要です。

[13] 樹皮の表面を顕微鏡で見れば、A がわかるでしょう。

また、葉には二酸化炭素を取り込んで酸素を吐き出すための気孔があることがわかるでしょう。

[14] B は、衛星写真をいくら眺めたところで見えてきません。その代わり、衛星写真でわかるのは、地球上の緑地が年々減っていくことです。一方、顕微鏡でいくら樹皮を細かく見ていっても、C は見えてきません。顕微鏡で見えるのは、D だけです。さらに、都市の景観をデザインする

ときには、街路樹として人間や自動車の視点からごくふつうに「木を見る」ことが必要となります。「I」あるいは、植物や農作物を品種改良する場合には、DNAレベルで遺伝子としての情報を見なければなりません。「II」

[15] このように、同じ「木」を見つめるにしても、たった一つのレベルで見えていたのでは、全体像、そして互いにどのように関係しているか、というようにつながりは決して見えてきません。「木を見る」ときには、何のために見るのか、つまり、「木」が持つてどいう特徴や関係に注目したいのか、が重要です。「III」

[16] このように、何かを理解しようとするときは、その対象のどの

部分に着目したいか、明確になっていかなければなりません。
(d)、その部分が他とどうつながっているのか、相互
関係を見抜くように努めましょう。「Ⅳ」それが「わかる」
ことへの近道です。

(梅津信幸「のぶゆき『伝わる!』説明術」から)

(注) DNAⅡ主に細胞核に染色体として存在する遺伝子の本体

問一 (a) から (d) に入る語の組み合わせとし
て適当なものはどれか。

- ア「a たとえば b しかし c 一方で d その上で」
イ「a その上で b たとえば c しかし d 一方で」
ウ「a 一方で b その上で c たとえば d しかし」
エ「a しかし b 一方で c その上で d たとえば」

問二 ①「初心者にわかりやすい……難しいものです。とあるが、筆

者がそう考える理由として最も適当なものはどれか。

- ア 相手にとって必要な情報から基本的なことがらまで、幅広く
触れなければならないから
イ 個別のことだけでなく、それらのつながりについても相
手に説明しなければならないから

- ウ 典型的な「わからない」話のパターンにならないように、常
に相手の反応を見ながら説明しなければならないから
エ 相手が必要としていることがらだけでは説明が不十分である
ことが多いから

問三

に入る言葉として適当なものはどれか。

- ア 木を見て森を見るな イ 木を見ずに森を見る
ウ 森を見ずに木を見る エ 森を見て木に気づけ

問四 ②

それとあるが、その内容として適当なものはどれか。

- ア 他との関係
イ 取り囲む周囲とのつながり
ウ クヌギの木が持つ意味
エ 理解しようとしていること

問五 ③

何でも分解しすぎてしまう……当然なのです。とあるが、

その理由として最も適当なものはどれか。

- ア「科学」は、他との複雑な関係について専門的な視点から説
明することを第一としているから

イ 西洋科学を基本としている「科学」は、他との関係性を大切にする日本人の感覚にはなじまないから

ウ 他とのつながりを無視して全体から一部分を切り取る「科学」は、理解に不可欠な情報までも捨ててしまうから

エ 日々専門的に何かを「取り出し」研究している「科学」の情報量は、膨大で取捨選択が困難であるから

問六

A

から

D

には、次の語句がそれぞれ入る。

C

に入るものはどれか。

- ア 地球上のあちこちで森林が消滅しているという現実
- イ 植物が酸素を作り出しているということ
- ウ 樹木は膨大な数の細胞から作られていること
- エ 樹皮や葉の細胞レベルの活動

問七

次の文章が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを後から選べ。

その注目のしかたによって、全然違った観点や観察の細かさが必要になってくるのです。

- ア 「Ⅰ」
- イ 「Ⅱ」
- ウ 「Ⅲ」
- エ 「Ⅳ」

問八

本文の段落分けとして適当なものは次のどれか。

- | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|
| ア | 「1」 | 「5」 | 「6」 | 「8」 | 「9」 | 「11」 | 「12」 | 「14」 | 「15」 | 「16」 |
| イ | 「1」 | 「6」 | 「7」 | 「11」 | 「12」 | 「14」 | 「15」 | 「16」 | 「15」 | 「16」 |
| ウ | 「1」 | 「4」 | 「5」 | 「6」 | 「7」 | 「8」 | 「9」 | 「11」 | 「12」 | 「16」 |
| エ | 「1」 | 「8」 | 「9」 | 「10」 | 「11」 | 「15」 | 「16」 | 「11」 | 「12」 | 「16」 |

問九

本文の展開の説明として適当でないものはどれか。

- ア 「見る」ということの大切さを、森の中の一本のクヌギの木を見るという具体的な実証例を挙げ、西洋科学の視点から立証している。
- イ 知りたい情報を得るためには、あらゆる角度から「見る」とことが大切であるという点を、顕微鏡写真から衛星写真レベルまで、幅広い例を挙げて説明している。
- ウ 私たちが何か「わからない」ときはどんな状態にあるのか、という問題提起に対して、「木を見て森を見ず」ということばを使ってわかりやすく解説している。
- エ ものごとを深く理解するためには「木を見て森を見ず」ということばの一般的な意味からさらに進んで、木を見て森も見て、関係も見ることが大切だと説いている。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ペンケースから消しゴムを取り出す。それだけでなくも前回の期末試験以来、母親から成績のことをうるさく言われ続けているの――家で勉強時間を費やして内緒で漫画の続きを描くぶん、せめて授業くらい真面目に受けなくてはとあれほど自分に誓ったはずなのに、どうしてこう我慢が利かないのだろう。情けなくなる。

乱暴に消しかけた手を、けれど聡美はふと止めた。

よく見れば、なんだかずいぶんよく描けている。とくにこの、〈お嬢〉の横顔。いかにも首領の娘らしい気の強そうな顎の上げ方といい、それでいて恋する者に特有の憂わしげな目もとといい、このまま消しゴムのカスにしてしまうにはもったいない出来だ。

教壇の方をうかがう。薄い後頭部をこちらに向けて、教師は黒板に数式を書きつけている。聡美は再びペンケースをまさぐり、2Bの芯の入ったシャーペンを取り出した。

黒板に向かって右端の列の一番後ろというこの特等席は、「遠視」を理由に他の子とかわって手に入れた。視力1・5で遠視とはいささか強引だった気もするが、ここなら授業中に何を描いてもまずばれずに済む。

描いたのを見せて、と休み時間にやってくる友だちには気軽に応じる聡美だったが、

「イラストレーターとかになればいいのに」

そう言われた時には、^①こんなただのお絵かきだもの、と肩をす

くめてみせるのを忘れなかった。本当は何を目指しているかなんて、親や教師はもとより、友だちにも知られたくなかった。お世辞を真に受けてはいけない。「聡美は絵が上手」と思われるくらいは良くても、調子に乗って目立ちすぎると、^②出る杭は打たれるを地でいくことになる。目障りだとか生意気だとかという理由で標的にされるのは中学の時だけでこりこりだ。

女盗賊の肩で波打つ髪を、流れに沿って黒く塗りつぶしていく。白眼のきわをうっすらとグレーに塗ったのは、長いまつげが落とす影だ。意志の強さを物語る瞳には光を入れ、下まつげを一本一本ていねいに描き加える。

^③実際、ただのお絵かきには違いなかった。自分にはまだこの道のプロになる力などないことくらい承知している。この先どれだけ努力してもモノになるかどうかかわからないし、そもそも才能などというものがあるかどうかわからない。はっきりわかっているのは、受験を五か月後に控えてこんなものを描いている場合でないことと、(a) また母親にばれたら何を言われるかだけだ。

今年の春ごろだった。ノックもせずいきなり部屋に入ってきたくせに、母親は、勉強していると思っていた娘が漫画を描いているのを見るなり^④血相を変えた。

^⑤「自分を甘やかすのもいいかげんにしなさい！」

それは、聡美が小さい頃から何度となく言われ続けてきた言葉だった。中学校の国語教師として三十年勤めあげ、今は教頭となった頼子^{よりこ}の目に、娘は(b) 落ちこぼれの生徒のように映るら

しい。

「せっかく頑張つて今の高校に入ったのに、どうりでこのごろ成績が下がると思ったら、こういうことだったのね。どうしてあなたはそうルーズなの。今しなきゃいけないことをぐずぐず後回しにして、したいことばかりしている人のことを何とか知っている？人間、屑くずというのよ。漫画なんか、よりによってこんな時に描かなくなつて、受かったら好きなだけ描けるじゃないの。たった一年足らずの我慢がどうしてできないの？」

どうしてできないのだろう。

自分のことだというのに、考えても聡美にはわからないのだった。そのたった一年足らずの我慢がこうも耐えがたいのは（ c ）、
「自分を甘やかす人間の屑」である証拠なのだろうか。

だが母は受かったら好きなだけ描けるなどと言う一方で、こうも言うのだった。

「そろそろ漫画も卒業しないとね」

読んだこともないくせに、と聡美は思う。^⑥ 思い出すだけで胃袋の中身がふつふつと煮立ってくる。

あの母親も、おおかたの大人と同じく、漫画を子供の読み物だとは思っていない。教科書に載るような文学は高尚なもので漫画は低俗なもの、と頭から決めつけていて、聡美がどんなに言っても——普通の本に子供向けと大人向けがあるように、漫画にも大人の鑑賞に堪たえる優れた作品が沢山あるのだといくら説明してやっても、薄笑いを浮かべるばかりでまともに取り合ってくれない。

（ d ） 学校でもあんな調子なのだろうと思うと、教わる生徒が気の毒になってくる。^⑦

卒業・なんて、できるはずがないのだった。どだい、するつもりもなかった。

聡美が酸欠の金魚のような息苦しさを脱して、かろうじて楽に呼吸できるのは、自分の描く漫画の中でだけだ。無心に描いている間だけ、現実の自分が何の取り柄えもない、つまらない人間だということ忘れていられる。「鈍くさい」だの「暗い」だの「顔デカイ」だのといった、正直なだけに残酷な男子の言葉にとらわれることもなければ、母親の口から出る「早くしなさい」や「どうしてあなたは」の類に縮こまることもなく、ひたすら望むままに心を異界へ飛ばすことができる。麗うわしい姫君であろうと、腕の立つ戦士であろうと、あるいは架空の生きものや妖精にさえ、たやすく変身することができるのだ。

ああうまくなりたい、と聡美は思う。

絵ばかりでない。読む人が思わず引き込まれるようなストーリーや、魅力的なキャラクター。まだ誰も描いたことのないテーマや、説得力のある台詞せりふ、歯切れのいいコマ割り、胸に残るラストシーン……今は自分の頭の中だけにある世界を自由自在に紙の上に表現できるくらい、もつと、もつともつとうまくなりたい。そのための努力なら、何だって厭いとわれない。それ以外のことなんか、何ひとつしたくない。

「えー、教科書二〇四ページ、例題の三……」

抑揚のない声が、まるで虫の羽音のように頭の上を素通りしていく。まわりに合わせて適当なページをひらいておいて、聡美はまた〈お嬢〉の続きに戻った。
(村上由佳「雲の滞」から)

問一 ① こんなただの……忘れなかった。とあるが、「聡美」がこ

のようにふるまう理由として最も適当なものはどれか。

- ア 一生懸命に受験勉強している友だちに申し訳なかったから
- イ 生気だと思われ、いじめの対象になるのを恐れたから
- ウ 授業中に絵を描いている自分が情けなかったから
- エ 褒められ、恥ずかしくなってしまうたから

問二 ② ④ 出る杭、血相を変えたの本文中での意味の組み合わせとして

適当なものはどれか。

- ア 「② 抜きんでた才能を持っている人」 ④ 顔色を変えた
- イ 「② 余計なことをする人」 ④ とても驚いた
- ウ 「② 他人と同じようにできない人」 ④ 目の色を変えた
- エ 「② 周囲と仲良くできない人」 ④ 非常に慌てた

問三 ③ 実際、ただのお絵かきには違いのなかった。とあるが、絵

に対する「聡美」の本心として適当でないものはどれか。

ア 絵を描いているときだけは、自分が何の取り柄もないつまらない人間だということを忘れて無心になれる。

イ プロの漫画家になる力などないし、この先いくら努力してもモノになるかどうかわからない。

ウ 受験を控えているながら絵ばかりを描いているのは、母が言うように受験勉強から逃げているだけなのかもしれない。

エ 自分の頭だけにある世界を自由自在に紙の上に表現できるくらい、もっと、もっともうまくになりたい。

問四 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして適当なものはどれか。

- ア 「a きつと b やはり c もしも d まるで」
- イ 「a もしも b まるで c やはり d きつと」
- ウ 「a やはり b きつと c まるで d もしも」
- エ 「a まるで b もしも c きつと d やはり」

問五 ⑤ 「自分を甘やかすのでもいいかげんにしなさい！」とあるが、母の

言う「自分を甘やかす」行動として適当なものはどれか。

ア 授業くらい真面目に受けると誓ったはずの「聡美」が、我慢がでずに漫画を描いていること

イ 「聡美」が、教室の後ろの席に座っていることをいいことに、授業中に好きな絵ばかりを描いていること

ウ 「聡美」が、漫画に没頭することによって自分が鈍くさく、根暗な人間だという事実を忘れようとしていること

エ 受験を控えている「聡美」が、勉強もせずに好きな漫画ばかりを描いていること

問六 ⑥ 思い出すだけで……煮立ってくる。とあるが、この時の「聡美」の気持ちとして適当でないものはどれか。

ア いつも「勉強、勉強」と追い立て、自分を怒鳴ることですトレスのはけ口になっている母親への強い憎しみ

イ 漫画の魅力を解ろうともしないで、偏見の目で見ている母親への激しい憤り

ウ 「人間の屑」とまで言っつて、漫画ばかり描いている自分を批判する母親への強い反発

エ 自分を理解しようとししないで、そのときそのときで言いたいことを言う母親への激しい怒り

問七 ⑦ あんな調子とあるが、この時「聡美」が想像した母親の様子として最も適当なものはどれか。

ア 自分が気に入らないと、相手を激しく非難する様子

イ 自分の立場を利用して、相手に対して高圧的になる様子

ウ 自分が正しいと信じ、相手を認めようとしないう様子

エ 自分の能力を過信して、相手を理解しようとしないう様子

問八 ⑧ 抑揚のない声が、……素通りしていく。とあるが、この時の「聡美」の様子として適当なものはどれか。

ア 漫画の価値を否定する母親を見返すために、授業中でも絵をうまく描こうとして、教師の話に集中していない様子

イ 次の休み時間に友だちに見せようと必死に絵を描いているため、教師の言葉が頭に入っていない様子

ウ 将来の夢を実現するためには時間を惜しんで絵の技術を磨かなければならず、授業は二の次になっている様子

エ 漫画を描くことしか頭にないため、授業中の教師の話に興味を持たない様子

問九 「聡美」にとつて、漫画とはどのようなものか。その説明として適当でないものを選べ。

ア 絵の中に思うがままの世界を作り上げることによって、息苦しい現実から逃れて自分の心を解放することができるもの

イ 中学の時の嫌な思い出を忘れさせ、残酷な言葉を発する男子たちに対して唯一立ち向かわせるもの

ウ 自分が情熱を注ぎ込める唯一のものであり、絵をうまく描けるならどんな努力も厭わないと思わせるもの

エ 受験を控え、母親から注意されてもどうしても自分の生活から切り離すことのできないもの

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今昔、比叡ひえの寺の西塔しゆんみょうに、春命はるみことといふ僧ありけり。幼にして山に登りて、師しに随したがひて法花經を受け習ひて、昼夜に読誦どくじゆして、つひに他の勤め無し。ただ、法花經を誦して年月を過ぐる程に、夢に天女ありて、告げていはく、(a)汝なんじ前生きつねに狐の身を受けて、この山の御堂(開イテイ)の天井の上に住して、常に法花經を聞き奉り、法螺(開イテイ)の声を聞きき。(1)その故に、今人の身と生まれて、ここの僧と成りて法花經を誦誦す。(入問ニハ生マレガタイモノデアリ、仏法ニハナカナカメグリアエナイモノゾク)人の身受けがたし。仏法にはあひがたし。(b)いよいよ励みて怠る事無かれ」と告ぐ、と見て夢覚めぬ。その後、前生(前世ノ報イヲ知ツデ)の果報を知りて、因果の道を信ず。最後に病ありといへども、重く煩はずして失せにけりとなむ語り伝へたる。(ト語り伝エラレイル)(2)
(注) 法螺ほらの声 法螺とは修行者が吹く貝であり、その音(声)は仏の説法にたとえられる

問一

(1) 汝(a)、いよいよの本文中での意味はそれぞれどれか。
汝(b)

ア この人は
ウ 私は
エ おまえは

(2) いよいよ

ア とうとう
ウ いっそう
イ 今度こそ
エ しっかりと

問二 (1) その故とあるが、「そ」の内容として適当なものはどれか。

ア 前世で、狐から人に生まれ変わろうとして読経していたこと
イ 前世で、常に法花經をよむ声や法螺貝の音を聞いていたこと
ウ 前世で、狐の身でありながら仏に仕えていたこと
エ 前世で、御堂の天井に住んでいたこと

問三 (2) 因果の道とあるが、ここではどのようなものを指しているか

適当なものを選び。

ア 狐であつた前世
ウ 仏の教え
イ 天女が存在
エ 比叡山での修行

問四 (3) たるの活用形として適当なものはどれか。

ア 連体形
イ 終止形
ウ 連用形
エ 已然形

問五 この話の内容として適当でないものはどれか。

ア 幼いころに入山して以来、年月を経て修行していた「春命」は、自分の前世での果報を夢で知ることとなった。
イ 法花經ばかりを読経する「春命」をいさめ、他の経も習わせるために、「天女」は夢で前世の善行を語った。
ウ 生まれ変わった後、「狐」が人間になれたのは、仏の御利益があつたからである。
エ 一心に法花經を信じて唱えてきた「春命」は、病を得ても重く煩うことがなかった。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

四十年ほど前、とある証券会社^(a)に「雲」を「品」のように三つ書き、その下に「龍」を同じく三つ書く字で「たいと」と読む姓を名乗る人物が訪れ、名刺を残していったことがあるそうです。これで一文字、八十四画の中国にもなかった、最も複雑な漢字になるとのことですが、その正確な読みも含め、存在がいまだに確認されていないそうです。

画数が多い人の話をしたついでに、少ない人についても。

一番画数の少ない名字^(c)では「一」さんや「A」さんなどといった方が実際に存在しています。名字が一画の方がもしいらつしやったら、お子さんの名前を「一」にされてはいかがでしょうか。「一一」ってのもカッコイイじゃないですか。

長崎県には「田中彼方^{かなた}」さんという、読み方が **B** になる人がいらつしやるそうです。また、佐賀県には「荒川由井」(あらかわゆい)さんという人もいらつしやいます。

(<http://kanji-fancelub.sakura.ne.jp/jimmei/jimmei.html> から)

問一 証券、訪、名字、の読みをひらがなで書きなさい。

問二 **A** について、次の各問いに答えなさい。

(1) **A** に入る語として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 乙 イ ニ ウ 川 エ 八十

(2) (1)の語を選んだ理由を、次の文の「1」「2」を埋める形で答えなさい。ただし、それぞれの空欄には、本文中の三字以内の語が入るものとする。

A には、「1」「2」が入るから。

問三 **B** に入る語句を、十五字以上二十字以内で答えなさい。

問四 ^①いらつしやいについて次の各問いに答えなさい。

(1) ここで使われている敬語の種類を答えなさい。

(2) この部分における敬意の方向を示した次の文の空欄に適切な語句を入れなさい。

「」から「荒川由井」さんに対する敬意。

